

## 目次

DataServerELS, UNIFY4.0 / DataServer, UNIFY2000 Database系	
<a href="#">UNIFY4.0 からUNIFY DataServer ELS へのコンバージョン</a>	... 1
<a href="#">DataServer ELS から DataServer へのコンバージョン</a>	... 3



## UNIFY4.0からUNIFY DataServer ELS へのコンバージョン

DataServerELSインストールディレクトリ /home/ELS

### 1. データベースの移行

#### Step1 DataServerELSの環境変数の設定

```
DBPATH=/home/ELS_DB; export DBPATH
PATH=/home/ELS:/home/ELS/bin:$PATH ; export PATH
UNICAP=/home/ELS/lib/unicap ; export UNICAP
TERMCAP=/home/ELS/lib/termcap ; export TERMCAP
UNIFY=/home/ELS/lib ; export UNIFY
```

#### Step2 データベースのコピー

UNIFY 4.0 のDBPATH に設定されているディレクトリ以下の全ファイルを  
UNIFY DataServer ELS の環境へコピーする。

[例]

```
$ cd /home/U40_DB          unify 4.0 のディレクトリ
$ cp * /home/ELS_DB/.    DataServer ELSの$DBPATHへ全ファイルをコピー
```

#### Step3 共有メモリIDの削除

ipcsで共有メモリIDを調べ、ipcrm \_mで削除する。

#### Step4 自動変換

シェルスクリプト unify を実行し、UNIFY DataServer ELS を起動する。  
データベースは、この時点でUNIFY DataServer ELS へ自動変換される。

#### Step5 自動変換後の確認

ELS のメインメニューより「3. S Q L -問合せ / D M L 言語」を選択し  
sql> のプロンプトから tables を実行する。

[例]

```
sql> tables
tbl1      tbl2      tbl3      tbl4      tbl5      tbl6
```

全テーブルが正しく表示されていることを確認する。  
問題なければ、データベースの移行は正常終了である。

### 2 . データベース移行後の作業

#### Step1 システム・タイトルの変更

画面に表示されるシステム・タイトルは、移行前の状態になっている。

```
"UNIFY DBMS 4.0"
```

「システムパラメータの変更 ( parmnt ) 」を使用して、システム・タイトルを次の  
名称に変更する。

```
"UNIFY DataServer ELS"
```

## Step2 B ツリーインデックスの再構成

「B ツリーインデックスの追加 / 削除 ( idxmnt ) 」を使用して、  
全 B ツリーインデックスの再構成を実行する。

## Step3 日付データの定義

- ( 1 ) 属性DATEの表示フォーマットは、UNIFY4.0ではDATETPで設定したが、  
UNIFY DataServer ELSでは、DATETPを使用せず、かわりにSDATFMTを  
を使用する。

### [設定例]

```
SDATFMT=YY/MM/DD
export SDATFMT
```

- ( 2 ) UNIFY DataServer ELSは、2桁年フォーマットの日付データを2000台の日付と  
して認識させる機能を持っている。  
これを実現させる環境変数CENTURY\_CUTOFFを設定する。

### [設定例]

```
CENTURY_CUTOFF=20
export CENTURY_CUTOFF
```



## DataServer ELS からDataServer へのコンバージョン

DataServer ELSインストールディレクトリ /home/ELS  
DataServer インストールディレクトリ /home/DS

### 1. SQL/Aデータベース設計変換スクリプトの作成

Step1 DataServer ELSの環境変数の設定

```
UNIFY=/home/ELS/lib
DBPATH=/home/ELS_DB
DBNAME=file.db
PATH=/home/ELS:/home/ELS/bin:$PATH
REL2000=/home/DS
CONV=/home/DS/conv
PATH=/home/DS/conv:$PATH
```

以下の2つはここでは必要ないが、ACCELL/IDSのアプリケーションを実行するときには必要になる。

```
TERMCAP=$UNIFY/termcap
UNICAP=$UNIFY/unicap
```

Step2 ファイルのセーブ

DBPATH内のすべてのファイルをセーブし、DBPATHには3つのファイルのみ残しておく。  
残しておいた3つのファイル

```
file.db
file.dbr
unify.db
```

Step3 DataServer用のデータベースを作成するためのディレクトリを作成し、ディレクトリを移る。

```
$ mkdir $DBPATH/../DS_DB
$ cd $DBPATH/../DS_DB
```

Step4 変換準備ユーティリティの実行

```
$ $CONV/prep.sh
```

Step5 変換ユーティリティの修正

\$CONV/conv.sh中の下記の箇所をコメントにする。

```
# insert.err should have 3 lines saying 'recognized query', else error
# if [ ! `cat insert.err`
# then
#   echo "Error: Trouble loading data into conversion control data base."
#   cat insert.log insert.err
#   echo "Exiting ...." `date`
#   exit 2
```

```
#fi
#rm -f insert.log insert.err
```

Step6 変換ユーティリティの実行  
 \$ \$CONV/conv.sh > conv.log 2>&1 &

Step7 変換ユーティリティ実行後のスクリプト確認

変換ユーティリティが正常に実行されれば、DataServer ELSのデータベース設計がDDL形式に変換されている。失敗した場合は、スクリプトファイルは作成されず、ワーク用ディレクトリworktmpが残っているので、失敗の原因を追及した後、\$DBPATH/./DS\_DBの内容をすべてクリアし、コンバージョンを再実行する。成功した場合に作成される主なDDLスクリプトを掲げる。

<b>Ucreatedb.sql</b>	データベースを作成するためのDDL
<b>Utables.sql</b>	テーブルを作成するためのDDL
<b>Usynonyms.sql</b>	列のシノニムを作成するためのDDL
<b>Uhashtabs.sql</b>	ハッシュインデックスを作成するためのDDL
<b>Ulinks.sql</b>	リンクインデックスを作成するためのDDL
<b>Ubtrees.sql</b>	Bツリーインデックスを作成するためのDDL
<b>U4.dump.sql</b>	全テーブルのレコードをファイル落すSQLコマンド
<b>U2000.load.sql</b>	DataServer にレコードをロードするためのSQLコマンド
<b>U2000.sh</b>	データベースを作成するためのシェルスクリプト
<b>Uaddcgp.sh</b>	カラムグループを定義するためのシェルスクリプト

[注釈]

- 1) Utables.sqlに記されたテーブル名にはショート名が、列名にはロング名が使われている。列のショート名はシノニムという形式でUsynonyms.sqlに出力されている。
- 2) コンビネーションフィールド (COMB) に該当する機能がDataServerにはなく、Utables.sqlではカットされ、コンポーネントフィールドのみ落ちている。グループカラムは、Uaddcgp.shで定義する。
- 3) DataServerは、ハッシュインデックスが自動で作成されないため、一次キーに対して Uhashtabs.sqlで明示的に作成しなくてはならない。
- 4) セキュリティの定義は変換できない。
- 5) 従来のエンター画面はDataServerに移行することはできない。

## 2. DataServerデータベースの作成

Step1 DataServer の環境変数の設定

```
UNIFY=/home/DS/lib
DBPATH=/home/DS_DB
DBNAME=file.db
PATH=/home/DS/bin:$PATH
```

以下の2つはここでは必要ないが、ACCELL/SQLのアプリケーションを実行するときには必要になる。

```
TERMCAP=$UNIFY/termcap
UNICAP=$UNIFY/unicap
```

Step2 file.cf (コンフィギュレーションファイル) の作成。

\$UNIFYにあるprod.cfをfile.cfにコピーする。  
(例) cp \$UNIFY/prod.cf \$DBPATH/file.cf

コピー後、file.cfを修正し、SHMKEYにデータベース単位でユニークな値(例えば6904など)を設定する。LMSHMKEYの行はコメントにする。

Step3 conv.shで作成したU2000.shを実行し、DataServerのデータベースを作成する。  
\$ U2000.sh > sql.log 2>&1

Step4 列グループの登録  
\$ Uaddcgp.sh

## 3. データ転送(DataServer ELS->DataServer)

Step1 DataServer ELSの環境変数の設定

```
UNIFY=/home/ELS/lib
DBPATH=/home/ELS_DB
DBNAME=file.db
PATH=/home/ELS:/home/ELS/bin:$PATH
```

Step2 DataServer ELSレコードのダンプ

全テーブルに対し次の作業を実行し、データをバイナリファイルにダンプする。  
\$ cd /home/DB\_DS/data  
\$ SQL  
\$ sql> select \* from テーブル名 into bin 'テーブル名.dat' /

Step3 DataServerの環境変数の設定

```
UNIFY=/home/DS/lib
DBPATH=/home/DS_DB
DBNAME=file.db
PATH=/home/DS/bin:$PATH
```

Step4 レコードを DataServerでデータのロード  
全テーブルに対し次の作業を実行し、Step 2 でダンプしたバイナリファイルから  
DataServerにレコードを登録する。

```
$ cd /home/DB_DS/data
```

```
$ SQL.
```

```
$ insert into テーブル名 values from bin 'テーブル名.dat';
```

[ 注釈 ]

変換対象がUNIFY2000の場合は、\$CONV/conv.sh実行時に作成される  
U40dump.sqlとU2000.load.dbldを使用してロードを行なうことができ、この方が  
手順としては簡単である。

変換対象がDataServerの場合、U40dump.sqlとU2000.load.dbldにレコードダン  
プを行なうための情報が書き出されないため、Step 2 とStep4の手順の通り、SQL  
コマンドを直接実行して変換を行なう必要がある。